

	福島県		県中地域				須賀川・岩瀬地区				石川地区				田村地区			
	第12週	第11週	第12週		第11週		第12週		第11週		第12週		第11週		第12週		第11週	
	感染症動向	感染症動向	感染症動向	学校欠席者情報	感染症動向	学校欠席者情報	感染症動向	学校欠席者情報	感染症動向	学校欠席者情報	感染症動向	学校欠席者情報	感染症動向	学校欠席者情報	感染症動向	学校欠席者情報	感染症動向	学校欠席者情報
インフルエンザ	357	489	29	7	48	69	19	6	20	27	8	1	8	18	2	0	20	24
咽頭結膜熱	36	38	5	0	1	4	1	0	0	0	0	0	0	0	4	0	1	4
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	161	173	15	0	18	0	8	0	7	0	0	0	0	0	7	0	11	0
感染性胃腸炎	116	198	25	14	34	27	25	7	34	15	0	5	0	11	0	2	0	1
水痘	15	17	4	7	1	0	4	7	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
手足口病	15	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
伝染性紅斑	34	40	5	0	2	0	5	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
突発性発疹	30	33	1	0	4	1	1	0	3	0	0	0	0	1	0	0	1	0
ヘルパンギーナ	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
流行性耳下腺炎	3	3	2	2	0	3	0	0	0	3	2	2	0	0	0	0	0	0
RSウイルス感染症	19	20	0	0	2	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
急性出血性結膜炎	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	/	0	/	0	/	0	/	0
流行性角結膜炎	10	9	0	0	0	0	0	0	0	0	/	0	/	0	/	0	/	0

【感染症発生動向調査】 ※定点医療機関からの情報をもとに集計 【学校欠席者情報】 ※保育園、幼稚園、小中学校、高等学校の欠席者情報です。

県中地域の状況

流行中	現在、流行中の感染症はありません。	※飛沫感染 患者の咳やくしゃみのしぶきに含まれる細菌等を吸い込むことで感染します。マスクの着用や咳エチケットを実施してください。 ※接触感染 細菌等が付着した手で口や鼻に触れることで感染します。手洗い、うがい、頻繁に人が触れる場所(ドアノブ等)についての環境整備など基本的な対策を徹底することが必要です。
小流行中	<インフルエンザ> インフルエンザは高熱、関節痛等全身の症状が突然現れます。併せて普通の風邪と同様、鼻汁、咳等の症状もみられます。まれに、乳幼児は脳症を、高齢者は肺炎を伴うなど、重症化するおそれがありますので、早期受診を心掛けてください。感染経路は飛沫感染、接触感染です。 <A群溶血性レンサ球菌咽頭炎> A群レンサ球菌による上気道の感染症です。菌の侵入部位や組織によって多彩な臨床症状を引き起こします。感染経路は飛沫感染、接触感染です。	

福島県内で麻しんの発生報告がありました！！

国内で麻しんが流行しています。

- 3月18日に福島市内の医療機関、3月22日に郡山市内の医療機関から麻しん患者の届出があり、麻しんと確定診断されました。いずれの患者も海外渡航後に発症しています。
- 麻しんとは、麻しんウイルスによって発症する急性の感染症です。感染すると肺炎や中耳炎、脳症などの合併症を引き起こすことがある感染症ですが特効薬はなく、予防には予防接種が効果的です。
- 感染後は潜伏期間(10~12日)を経て、発熱、咳、鼻水といった風邪の様な症状が出現。3~5日継続した後、耳の後部や首のあたりから発疹が出現し、発疹が出ると4~5日で解熱します。
- 発病1~2日前から発疹出現後4~5日後頃まで、ウイルス排出の可能性があり、周囲に感染させるおそれがあります。感染力は大変強い病気です。空気感染、飛沫感染、接触感染など様々な経路で感染します。

- 現在、関西や首都圏で麻しんが流行しています。4月は進学・転勤などで人の往来が多くなる時期です。流行している地域に行く予定がある場合には感染予防対策をする必要があります。
- 麻しんは予防接種を受けることが、最も有効な予防方法です。これまでに受けた予防接種について母子手帳などで確認しましょう。予防接種歴なし・不明の場合には医師に相談し予防接種を受けましょう。

海外でも麻しんが流行している地域(アジア、アフリカ、ヨーロッパ等)があります。渡航前に渡航先で流行している感染症について、厚生労働省や検疫所のホームページにて確認しましょう。

